

ドル/円相場のトレード戦略

【ドル/円 週足】



■中期展望

本年の展望は、2018年の世界経済環境に関しては2017年の延長線上にあり、大きく変化する要因は見当たらず、通貨の強さも2017年の構図をおおむね引き継ぎ、ドル/円に関してはレンジ内で安定的に推移する可能性が高いと考えてきました。

堅調な米景気、FRBの利上げ観測の継続はドルを下支えし、緩やかなドルの上昇が期待できるため、大幅なドル下落のリスクは低いように考えられるものの、2017年12月のFOMCで発表されたドットチャートによると2018年は3回の利上げが予想であり、その点から考えると米国の長期金利の上昇幅は限られたものとなる可能性が高く、ドルの上値も限りがありそうで、昨年の高値水準が上値目標としてきました。

しかし、1月の相場は、年初に113円台の高値を付けて以降、ドルはじり安となり1月後半には108円前半まで値を下げました。

さらに2月に入ると、トランプ米大統領が洗濯機と太陽光パネルに対してセーフガード（緊急輸入制限）を発動することに署名し、貿易摩擦に対する懸念が拡大したことやムニューシン米財務長官が「弱いドルは貿易面で米国の利益になる」と発言したことなどをきっかけにドル安の流れが強まり、さらに米金利の急上昇と米株の急落を背景としたリスク回避姿勢の強まりから円買いが強まり、下値めどとしてきた昨年安値107円水準を下回り104円台にまで突入しました。

ドル/円相場のトレード戦略

しかし、その後は良好な米国経済を背景にドルの買い戻しが進み 9 月末には 113 円台と年初来高値を回復する動きとなっています。

9 月の FOMC では予想通り政策金利の引き上げを実施し、12 月の利上げを含め 2019 年末までに残り 4 回の利上げが期待される内容となり、ドル/円は底堅い動きが予想されます。

もともと、米国を中心とした貿易摩擦の激化はドルの上昇抑制要因であり、この点を考慮すると年末に向けてもレンジ相場が継続するものと考えられます。

■短期展望

先週は、112 円後半でスタートした後、も世界的に株式相場が軟調に推移するなど、前週に続いてリスク回避色が強く、一時 112 円 30 銭まで下落しました。

しかし、原油価格の下落などにより資源国通貨に対しドルが買われた動きにつられ、ドル/円も 113 円を回復、週末東京休場中に 112 円半ばまで押し戻されたものの 113 円水準で週を越えました。総じて小動きで方向感のない動きだったといえます。

今週は、週末に米中首脳会談があり、それまでには FRB 高官の発言機会が相次ぎます。

無事イベントをこなすことができればリスクオンの流れとなりそうですが、大波乱の可能性もあり要注意といえそうです。

想定レンジは、波乱がないものとして考えると先週同様の 112 円~114 円程度に収まるものと思われます。